

整備目標等の考え方

1．これまでの5か年計画

2．次期5か年計画における整備目標等の考え方（案）

「安全性・機能性に問題のある既存ストックの改善」の考え方

「高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠な新たなスペースの確保」の考え方

「大学附属病院の再生」の考え方

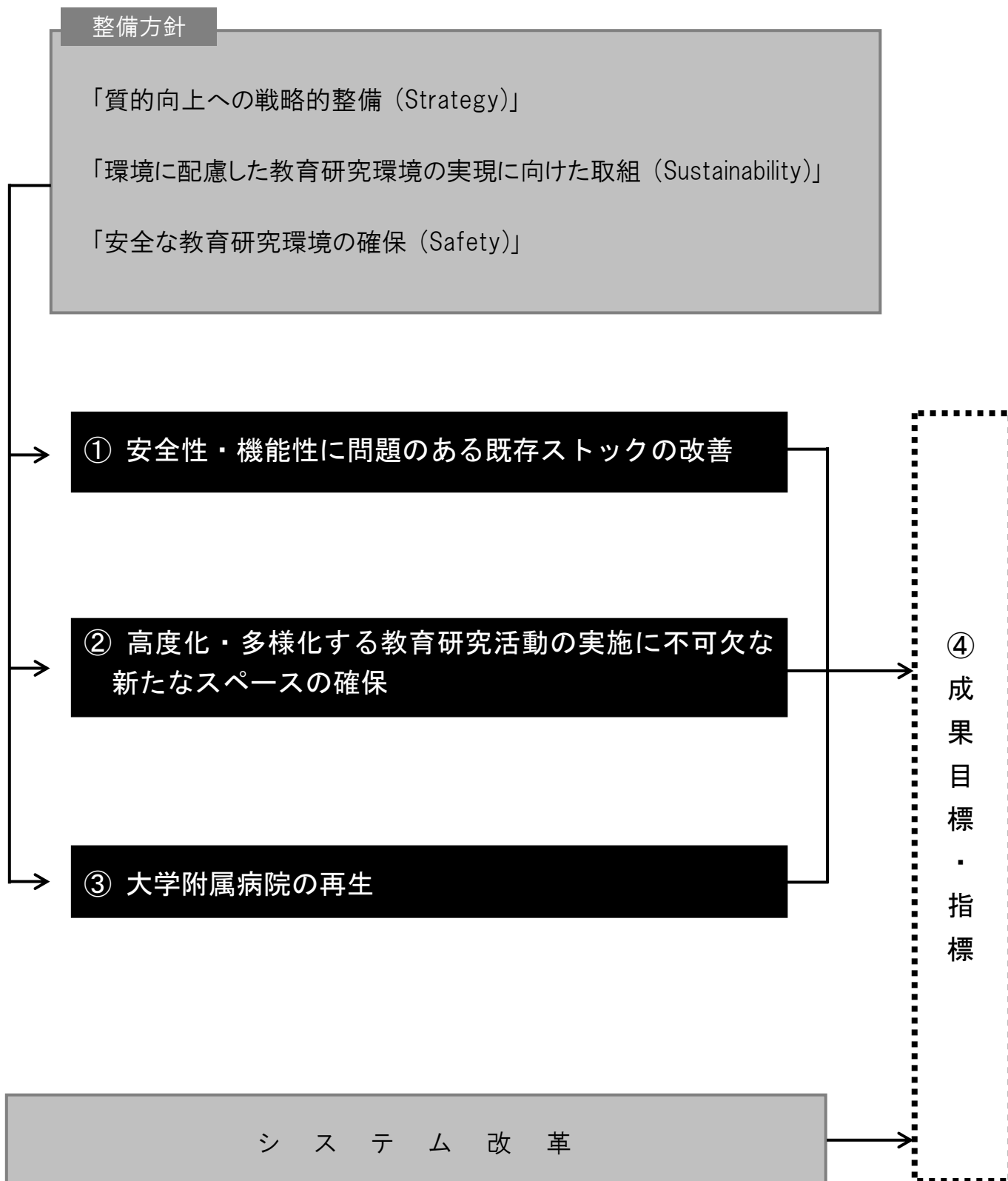
成果目標・指標の考え方

1.これまでの5か年計画

	基本方針等	主な整備内容に関する記述
第1次 5か年計画 (H13～17)	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>大学院施設については、大学院数の急増等による狭隘が深刻化。</u> ・ 大学院施設の整備に重点的に取り組むとともに、各部局が共有する総合的・複合的な研究棟の整備を行う。
第2次 5か年計画 (H18～22)	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>老朽施設の再生が最重要課題。</u>併せて、施設の狭隘化を解消 「人材養成機能を重視した基盤的施設」及び「卓越した研究拠点」を再生。 ・ 大学附属病院は、計画的に整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育研究基盤の再生に向け、老朽再生整備及び狭隘解消整備を行う。 ・ 併せて、「<u>耐震改修促進法</u>」を踏まえ耐震改修整備を図る。 ・ 真にやむを得ないもののみ新增築による整備を図る。
【案】 第3次 5か年計画 (H23～27)	<p>以下、「第二次中間まとめ」の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 「<u>質的向上への戦略的整備 (Strategy)</u>」 「<u>環境に配慮した教育研究環境の実現に向けた取組 (Sustainability)</u>」 「<u>安全な教育研究環境の確保 (Safety)</u>」 	

整備需要	計画における整備量	整備実績
<p>1,100万㎡</p> <p>大学院の狭隘解消 約120万㎡ 卓越した研究拠点 約40万㎡ 附属病院 約60万㎡ 老朽施設 約880万㎡</p>	<p>600万㎡</p> <p>1. 優先的整備目標 大学院の狭隘解消 約120万㎡ 卓越した研究拠点 約40万㎡ 附属病院 約50万㎡ 2. 老朽施設 約390万㎡</p> <p>(1兆6,000億円)</p>	<p>421万㎡(71%)</p> <p>1. 優先的整備目標 大学院の狭隘解消 121万㎡(99%) 卓越した研究拠点 34万㎡(92%) 附属病院 57万㎡(114%) 2. 老朽施設 209万㎡(54%)</p> <p>(1兆3,850億円(88%))</p>
<p>1,000万㎡</p> <p>老朽再生 約680万㎡ 狭隘解消 約280万㎡ 附属病院 約60万㎡</p>	<p>540万㎡</p> <p>1. 教育研究基盤施設の再生 老朽再生 約400万㎡ 狭隘解消 約80万㎡ 2. 大学附属病院の再生 約60万㎡</p> <p>(1兆2,000億円)</p>	<p>463万㎡(86%)</p> <p>1. 教育研究基盤施設の再生 老朽再生 334万㎡(83%) 狭隘解消 67万㎡(84%) 2. 大学附属病院の再生 62万㎡(104%)</p> <p>(9,884億円(82%))</p> <p>H22当初予算までの実績 (多様な財源による整備はH21年度までの実績)</p>
<p>1,163万㎡</p> <p>既存ストックの改善 約860万㎡ 新たなスペースの確保 約204万㎡ 大学附属病院の再生 約98.5万㎡</p>	<p>万㎡</p> <p>既存ストックの改善 万㎡ 新たなスペースの確保 万㎡ 大学附属病院の再生 万㎡</p>	

2. 次期5か年計画における整備目標等の考え方(案)



「安全性・機能性に問題のある既存ストックの改善」の考え方

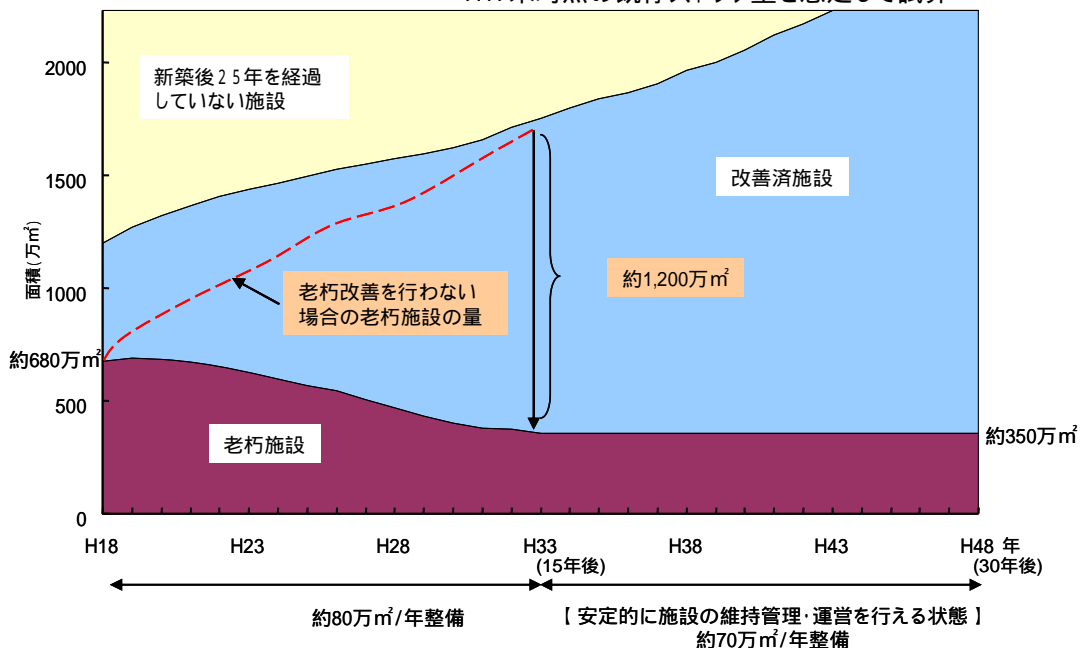
第2次5か年計画(H18～22) < 老朽再生整備 約400万㎡(実績334万㎡:83%) >

整備量の 考え方

(1) 【施設】 毎年約80万㎡の整備を行い、15年後に安定的な施設の維持管理・更新ができる定常状態()

30年以上改善が行われなままの施設を生じさせない状態

< H17末時点の既存ストック量を想定して試算 >



(2) 【基幹・環境設備】 老朽化の著しい基幹・環境設備の改善

(1) 【施設】

耐震性が著しく劣るものを中心に整備

耐震性能(Is値)	需要	5か年方針()	緊急に対応の必要な需要
Is値 0.4	約280万㎡	}	約400万㎡
0.4 < Is値 < 0.7	約260万㎡		
0.7 Is値	約140万㎡		
計	約680万㎡	-	

- : 最優先で実施
- : 教育研究施設を中心に、事業の緊急性や効果が高いものについて優先的に実施
- : 教育に特化した施設を中心に、事業の緊急性や効果が著しく高いものについてのみ実施

整備対象 の 考え方

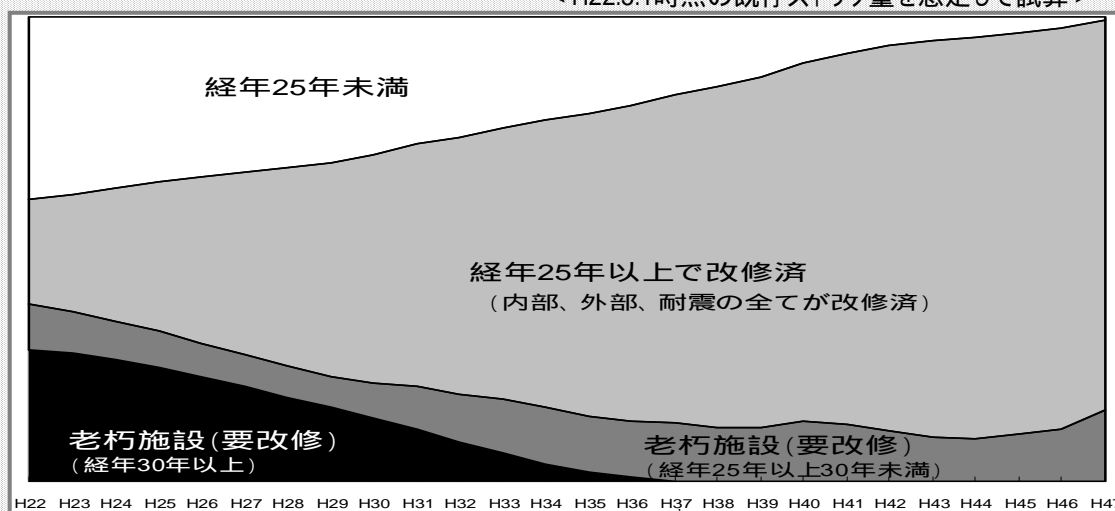
(2) 【基幹・環境設備】

法定耐用年数の2倍を超える基幹・環境設備の改善

次期5か年計画(たたき台)(H23~27)

- (1) 【施設】 15年後に安定的な施設の維持管理・更新ができる定常状態()
30年以上改善が行われないままの施設を生じさせない状態

<H22.5.1時点の既存ストック量を想定して試算>



経年30年以上の老朽施設(要改修)を
15年間程度で解消

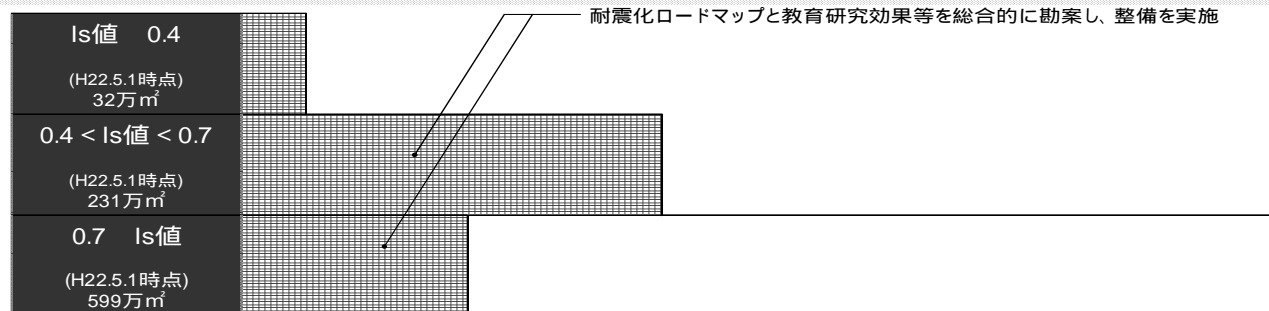
定常状態

- (2) 【基幹設備(ライフライン)】老朽化の著しい基幹設備(ライフライン)の改善

- (1) 【施設】

附属病院を除く

原則、5年間で耐震化の完了を目指す。
Is値 0.4の施設は、原則、H23,24の2年間で改善を目指す。
0.4 < Is値 < 0.7の施設は、教育研究効果等を勘案しつつ、原則、H23~27の5年間で改善を目指す。教育研究効果等の高い施設から優先的に整備を実施
0.7 Is値の施設は、教育研究効果等の高い事業を整備。



- (2) 【基幹設備(ライフライン)】
法定耐用年数の2倍を超える基幹設備(ライフライン)の改善

「高度化・多様化する教育研究活動の実施に不可欠な新たなスペースの確保」の考え方

第2次5か年計画(H18～22) < 狭隘解消整備 約80万㎡(実績67万㎡:84%) >

	需要	5か年方針	緊急に対応の必要な需要
1. 人材育成機能を重視した基盤的施設 教育研究施設(大学校舎、研究施設、 高専、大学共同利用機関等) 学生等支援施設(図書館、福利厚生施設、 寄宿舍等) 附属学校	約250万㎡ (約160万㎡) (約50万㎡) (約40万㎡)		約80万㎡
2. 卓越した研究拠点	約30万㎡		
計	約280万㎡		

新たな教育研究ニーズへの対応等により著しく狭隘している施設で、事業の緊急性や効果が高いものについて実施(平成13年度以降に設置された大学院約45万㎡や卓越した研究拠点約34万㎡)

「大学附属病院の再生」の考え方

第2次5か年計画(H18～22) < 大学附属病院の再生 約60万㎡(実績62万㎡:104%) >

(1) 老朽改善

耐震性能(Is値)	需要	5か年方針	緊急に対応の必要な需要
Is値 0.4	約17万㎡		約34万㎡
0.4 < Is値 < 0.7	約23万㎡		
0.7 Is値	約18万㎡		
計	約58万㎡	-	

- : 最優先で実施
- : 教育研究施設を中心に、事業の緊急性や効果が高いものについて優先的に実施
- : 教育に特化した施設を中心に、事業の緊急性や効果が著しく高いものについてのみ実施

(2) 狭隘改善

- ・前5か年計画から進められている再開発整備に引き続き、計画的な整備を推進するために必要な需要
約26万㎡

次期5か年計画(たたき台)(H23～27)

新たな教育研究ニーズへの対応については、既存施設の有効活用等を基本とし、真にやむを得ないものについては新增築による整備を図る。

- (1) 国際競争力のある世界的教育研究拠点の整備
 - ・第2次5か年計画の「卓越した研究拠点」の実績と同程度を確保
- (2) 若手研究者のスペースの確保
 - ・若手研究者(ポストドクター等)のスペースを確保
- (3) 留学生の増加に伴う整備
 - ・増加する留学生への対応として、宿舎を確保
- (4) 医学部定員増に伴う整備
 - ・医学部定員増による不足面積に対応
- (5) 特色ある教育研究活動を活性化するためのスペース不足が特に著しい施設の整備
 - ・整備率が特に低い施設等に配慮

次期5か年計画(たたき台)(H23～27)

引き続き、再開発整備を着実に実施していくとともに、先進医療に対応した整備や基盤的設備の整備等についても適切に対応する。

- (1) 再開発整備の着実な実施
 - ・整備中の26大学について、着実に実施
 - ・未着手の6大学について、順次再開発に着手
- (2) 先進医療に対応した整備等
 - ・先進医療等に的確に対応するための整備
- (3) 基盤的設備の整備
 - ・附属病院の機能強化に不可欠な設備等を整備

成果目標・指標の考え方（案）

「第二次中間まとめ」(抄)

第4章 今後の国立大学法人等施設整備における中長期的な対応方策

3. 重点的な施設整備の推進

(3) 成果目標・指標

国立大学法人等の施設が人材養成や学術研究等の推進の基盤であることに鑑み、施設整備によって得られる成果についても、一定の目標（成果目標）を設けその達成に向けた施設整備を推進することが必要である。また、システム改革についても、その推進に関する目標を設け、これを着実に達成することによりシステム改革を一層推進することが必要である。

< 成果目標の指標例 >

質的向上への戦略的整備-Strategy-

- ・国際競争力のある世界的教育研究拠点の整備状況
- ・若手研究者のためのスペースの確保状況
- ・留学生のための宿舎確保状況
- ・教育研究施設の機能改善実施状況

地球環境に配慮した教育研究環境の実現に向けた取組-Sustainability-

- ・老朽施設のエコ再生により削減される CO2 排出量
- ・エコ再生を実施した施設の割合

安全・安心な教育研究環境の確保-Safety-

- ・耐震化率
- ・老朽化した施設の解消状況
- ・法定耐用年数を超える基幹設備の割合

システム改革の推進

- ・共同利用スペースの整備状況
- ・キャンパスマスタープランの策定状況
- ・施設修繕計画の策定状況
- ・建物別のエネルギー使用量の把握・公表状況

施設整備に当たっては、「3つのS」(質的向上のための戦略的整備 - Strategy - 、 地球環境に配慮した教育研究環境の実現に向けた取組 - Sustainability - 、 安全な教育研究環境の確保 - Safety -)の実現に向けた進捗状況を把握するため、一定の指標を通じフォローアップを実施する。

さらに、「3つのS」に加え「システム改革」についても、同様に一定の指標を通じたフォローアップを実施する。

また、「3つのS」及び「システム改革」に係る指標については、整備量を踏まえつつ、可能な限り成果目標を設定し、当該成果目標に対する達成状況を随時把握することにより、その後の具体的な施設整備に係る方針の策定に十分活用する。